

## 団体名

# たかはらパトロール隊【矢板市】

■代表者/今井 勝己 ■設立年月/平成15年10月 ■構成人数/30人

■活動日数/月1日 ■活動地域/矢板地区全体

## 活動のきっかけ

発足当時、自動販売機等荒らしが頻繁に起きており、商工会から警察署に対し、巡回の強化要望が出されました。昔から矢板では警察署と各種団体の交流会が定期的に開催されており、その会合の中で、当時の警察署長と商工会役員の提案によりこの会が発足しました。

## 活動内容

毎月、第一週目の月曜日に定期パトロールを実施しています。矢板警察署に集合し、生活安全課の警察官とともに、2班編成で、駅東および西部地区の大型店舗集合施設周辺において防犯チラシを配布し、巡回パトロールを行っています。

### ～隊長さんの声～

防犯カメラの設置も良いけれど、人間の五感で監視することが何よりも大事であり、日頃から地域住民による自主防犯が犯罪の未然防止につながるのだと思います。

自主防犯つまりボランティアなので、気長に、常日頃から継続することが大切です。

苦勞していることは、強いて挙げるならば、若い人の関心が薄く、募集してもなかなか希望者がいないことですかね。



車上ねらいを警戒中

## アピールポイント

活動の成果なのか、今では自動販売機荒らしは全く起こらなくなりました。自動販売機を管理する側にも防犯意識が芽生え、自主防衛ができるようになりました。

個人の負担にならないよう、活動日前に通知を出すだけで、強要はせず、皆自主的に参加するようにしています。地域で何かあった場合は矢板警察署に情報提供し、逆に矢板警察署からも犯罪の発生状況や注意事項等の説明を受けるなど、お互いに連携しながら、活動しています。

## やってよかった地域防犯ボランティア

以前、隊員が重機（農機具）の持ち去り現場を目撃し、「これはおかしい」と気づいて警察へすぐ通報。犯罪を未然に防ぎ、犯人逮捕にもつながりました。

防犯活動をするようになって、私たちの意識も変わり、変化を見逃さない「目」を養うことができるようになったのだと思います。

また、東日本大震災直後は、ガソリン盗難や計画停電があったため、矢板警察署から依頼を受け、青パトなどによる巡回を行い、治安回復に協力しました。



防犯を呼びかけるチラシを市民に配布

### 自主防犯活動豆知識

#### 4. 「犯人の目線」で「入りやすく見えにくい」を探してみよう

犯人になったつもりで危険な場所を探してみるとわかりやすいでしょう。「ここならひったくりが成功しやすいな。」とか「ここに長時間いても不自然には見えないな。」という場所は、大体「入りやすく見えにくい」場所です。また、逆に、あいさつをされたりきれいな場所に行ったりすると犯人は居心地が悪く、悪いことをするとすぐに通報されそうな予感がするはず。実は、あいさつや環境美化は防犯上も重要なことなのです。